

2023 年度 本部・施設事業報告書

社会福祉法人有隣社福祉会
風の子保育園

本部事業

- ・評議員会 2023 年度定時評議員会 6 月 21 日
- ・理事会 4 回 5 月 27 日、8 月 26 日、12 月 9 日、2023 年 3 月 9 日
- ・労働基準監督署の調査がはいる。9 月 7 日
組合から直接労基署に要望が出され指導検査(3 ヶ月間のタイムカード提出)問題無との結果が出た。
- ・法人・施設監査 9 月 12 日
- ・第三者評価受診 10 月 18 日 訪問調査 12 月 25 日 報告書 2024 年 4 月 17 日
- ・区の巡回指導(2 名) 11 月 7 日

施設事業

I 児童の状況

月 歳児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延べ(人)	備考
0	5	5	5	6	7	8	8	9	9	9	9	9	89	
1	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	179	支援児 2 人
2	17	17	17	17	17	17	17	16	17	17	17	17	203	
3	17	17	17	17	18	18	18	18	18	17	17	16	208	支援児 1 人
4	18	18	18	18	17	17	17	17	18	18	18	18	212	支援児 1 人
5	17	17	17	17	17	17	17	16	15	15	15	15	195	支援児 2 人
合計(人)	88	89	89	90	91	92	92	91	92	91	91	90	1086	

職員の状況

2023.4.1

正規職員数(実働 6 時間以上)	人	契約職員数(実働 6 時間未満)	人
基準内保育士	10	保育補助(有)前 2 時間	1
充実・特例保育士	3	“(派遣職員) 10-16	1
主任保育士	1	保育補助 前 4 時間	2
チーム保育加算	1	” 後 4・3.5 時間	2
基準外保育士	4	調理員 前 4.5 時間	3
固定出番保育士	(4)	” 後 3.5 時間	2
産休育休・病欠	(2)	用務員 朝 2.4 時間	2
保育士計	19	” 夕 1.5 時間	2
看護師・栄養士・調理師	3	事務員 前 4 時間	1
園長・事務員	2	主任補佐 火水木	1
内再雇用	(2)	嘱託医内歯科	2
合計	24	合計	19

II 保育の内容

保育・コロナ 5 類移行に伴い、感染症対策に配慮しながら元の生活に戻して行った。

- ・保護者と共に子ども達の成長を確認できる機会として、行事も取り組んだ。

乳児 (0 歳から 2 歳半まで)

- ・0 歳児が 4 月 5 人、徐々に入園し 11 月で 9 名揃う。1 歳児は 15 人定員にして 5 月から全員揃った。産休明けの 0 歳児や外国人家庭も増え、家庭との連携に配慮し保育した。0 歳児のオムツは無料とし 1 歳児以

上も「手ぶらオムツ」を利用した。「手ぶらエプロン、手口拭き」の導入もした。

- ・愛着関係を土台に子どもの思いを受容すること、大人との応答的なやりとりを大切にしてきた。支援の必要な児が複数いて、保育士間で連携を図りながら個々に合わせた保育に工夫を凝らした。

幼児 (2歳半から5歳児)

- ・子ども一人ひとりが「明日には達成できる」頑張り目標を見つけ楽しく元気に遊び、自主的、主体的に取り組み力をつけてきた。
- ・子どもが自ら挑戦、努力して獲得した発達課題を披露、みんなで成長を喜び合う場として行事を大切に、子どもにとって自然にできる方法を考え行った。保護者からは「子どもの成長を見ることができて良かった」という感想を頂いた。
- ・コロナ5類移行に伴い食事時大人も子どもと一緒に食べることができるようになり、会話を楽しむ姿がある。
- ・♡マークの保育士を加配、安全に楽しく遊べるようにしている。

III 健康及び安全

- 1 子どもの健康支援 子どもの健康及び安全の確保は子どもの生命の保持と健やかな生活が基本である。
 - ・コロナ5類移行に伴い、体調チェックカードの活用はプールカードと共に終了した。乳児は登園時に検温、体調に変化がないか日々確認し、健康状態を把握した。園内で出ている感染症が保護者に分かるように掲示した。
 - ・37.5℃以上の発熱児は3階の静養室に隔離、早めのお迎えと受診を勧めるなどの対応を行った。
 - ・園内では換気、消毒を徹底。手すり、玩具、テーブル、椅子等を含め消毒を継続した。
- 2 食育の推進 食育は健康な生活の基本としての「食を営む力」を養うことに力を入れた。
 - ・自分で「好きなものを好きなだけ食べる」ことを大切に、卒園までには「苦手だったもの」が食べられるよう長い目で見守った。
 - ・和食中心の一汁三菜を基本とし、季節の食材や行事食、子どもの嗜好を取り入れ、楽しい給食時間となるように努めた。給食と保育の連携を図り、献立内容を三群表やひらがな表記の献立表でわかりやすく知らせる。屋上での収穫物を給食に取り入れる。食材の展示、調理保育等食育の充実を図った。
- 3 環境及び衛生管理並びに安全管理
 - ・睡眠中0歳児は5分、1・2歳児は10分、3～5歳児は15分間隔で呼吸チェック等事故防止マニュアルを厳守、絶えず換気を図り、事故防止と感染拡大防止に努めた。
 - ・怪我、事故の報告は速やかに行いヒヤリハット(29件)を起こし分析検討、再発防止に努めた。
 - ・238件の怪我報告があった。(転び46件、自分で16件、衝突17件)
- 4 災害への備え
 - ・訓練を通して職員が主体的に行動できるよう努めた。
 - ・13年間続けてきた「災害伝言ダイヤル171」を今後も活用、定着させていく。
 - ・備蓄品は消費期限前に計画的に給食献立に取り入れて味に慣れるようにした。保護者も試食した。

IV 子育て支援

- 1 安心して預けられる保育園をめざして
 - ・乳児懇談会、離乳食講習会、秋の幼児親子遠足、4.5歳児クラス別懇談会は感染対策をとって実施し交流を図った。縦割り懇談会は日々の生活をスライドにしたことでリアルに伝えることができた。
 - ・子育てのパートナーとして卒園してからも継続的に支援を行っており、1年生の親睦会、小学生、中高生同窓会を実施した。
 - ・子ども家庭支援センターと連携して、縦親が中心となり育児困難家庭のケアに努めた。
- 2 地域に開かれた保育園をめざして
 - ・園見学、プレママ体験、保育体験は予約の上実施した。
 - ・土曜日の行事は竹馬・下駄作り、お話し会・リトミック、作品展、親子クッキング実施。
 - ・情報誌を年間12回発行配布した。在園向けに子育てミニ情報を発行した。
 - ・フードドライブを取り組んだ。年1回
 - ・板橋夏ボラの保育士体験や夏祭りの手伝い等たくさんの小中高大学生ボランティアがあった。

- 3 苦情としてはなかったが保護者からの苦言が2件あった。親子ハイキングで5歳児から説明不足であった。バギー置き場を使いやすくしてほしい。丁寧に説明、対応していくことで了解された。

V サービスの質の向上をめざして

- ・保育指針と年間計画、組織図に基づいて全職員が目標をもって各々の場所で力を発揮、サービスの質の向上に努めた。10月3年に1度の第三者評価アンケートを実施した。

研修 園の保育理念、保育指針に基づく保育課程、保育内容の充実、課題や職員のキャリアパス等、計画を基に研修に取り組んだ。自主的な研修には十分に組み込まなかった。保育サービス課4件、私立保育園園長会2件、東京都福祉保健局1件

就学に向けてのお話(第六小学校校長)、子育て講座(リスクウォッチ)、健康講座(依藤氏)、絵画指導(三村氏)、加賀児童ホームとの意見交換、高島特別支援学校の巡回相談など今後もニーズに合わせた内容を検討していく。

VI 広報活動

- ・日程変更等メール、ホームページ、掲示でお知らせした。見やすく読んでもらえる記事に取り組んだ。
- ・園の生活が分かる内容で情報誌・掲示板に掲示、フォトフレーム、リアルタイムを積極的に活用した。
- ・給食レシピや牧野氏のストレッチコラムなどミニ情報として子育てに役立つ情報をホームページにも掲載し提供した。

VII 危機管理

- ・ヒヤリハットから学び、情報を共有して事故防止に努めた。今後も引く続き取り組んでいく。
- ・情報管理は保護者、関係者全員から誓約書を取り、パスワードを設定しているが不十分である。

VIII 施設整備について

- ・毎年行っている安全チェックの改善点を中規模改修工事補助金で 沐浴室・12室・医務室の棚 コンセント交換等改修し、快適な保育環境を用意した。

安全対策で1~3階階段に監視カメラを4台設置、児童玄関の鉄柱と3階の花壇角にクッションを吹き付けた。追加工事でカメラの交換工事、2階トイレの水漏れ工事を実施した。

IX 職員処遇について

- ・19名中(固定勤務2名)13名の保育士が変則勤務担当、本俸の10%を手当として支給、保育士間のチームワークを図ると共に子育て中の職員が働き続けられるよう引き続き配慮した。
- ・全職員に3月臨時特例・臨時特別手当を支給した。
- ・実践会議を月2回教材準備や研究が行えるようにした。インテリアは若手の保育士が担当、定額の改善手当をつけた。
- ・宿舍借上げ支援制度を7名が活用し職員の定着に繋がった。
- ・保育士の保育力、教育力が強く求められている中、働き方改革と保育の質の向上を共に進めていく工夫、努力を続ける必要がある。

X 決算について(別添)